

H A G I

萩

題字は吉田松陰筆跡

SPRING ISSUE 2017

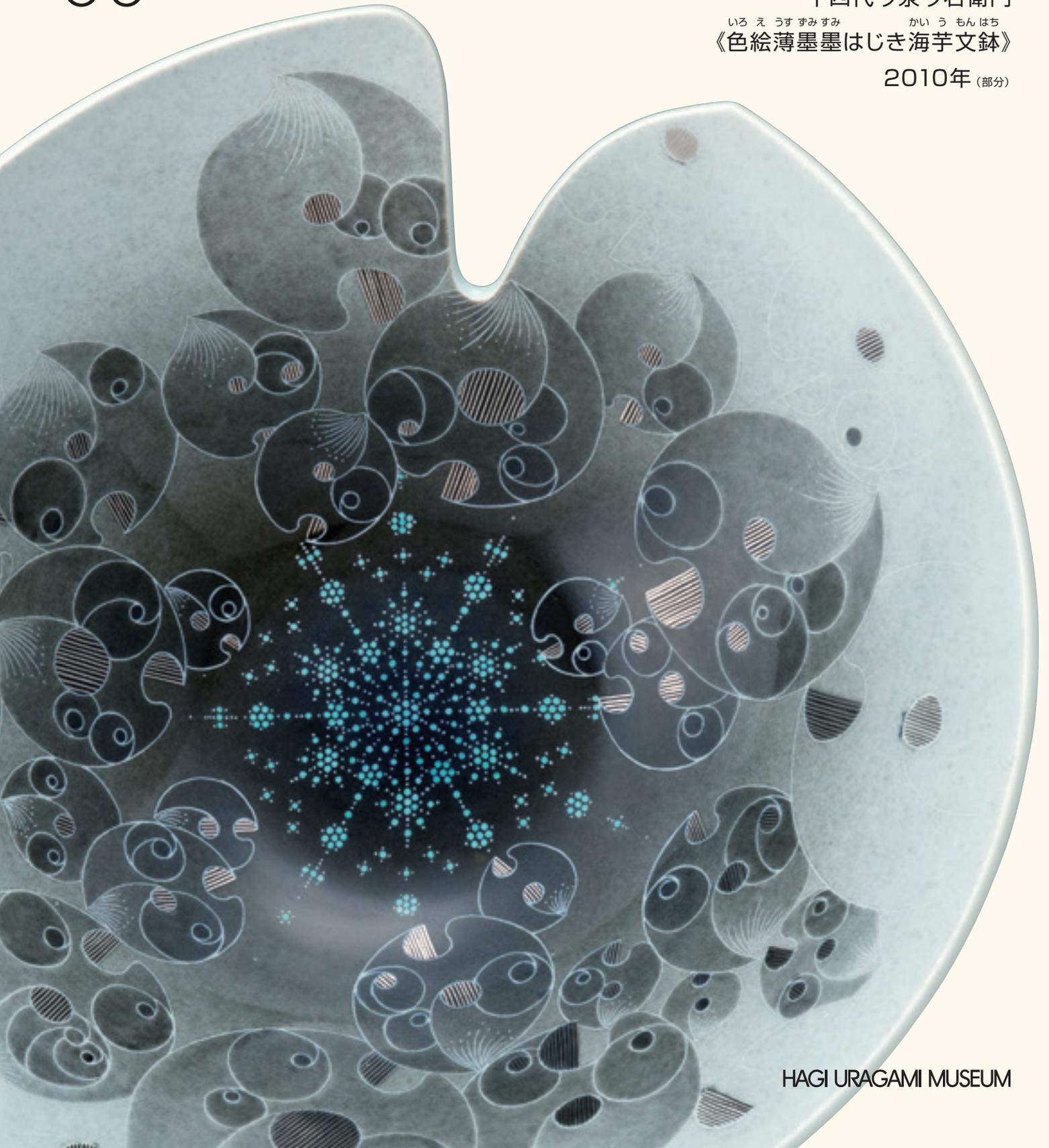
83

じゅうよん だい いまいずみ いま えもん

十四代今泉今右衛門

いろ え うす すみ すみ かい う もん はち
《色絵薄墨墨はじき海芋文鉢》

2010年 (部分)



HAGI URAGAMI MUSEUM

十四代 今泉今衛門の色鍋島

石崎 泰之

江戸時代に鍋島家が知行する佐賀藩の御用窯で製造された磁器（鍋島焼）のうち、染付の藍色を下絵に、赤・緑・黄の各色を基調とする和様の彩文を上絵付で施した色絵磁器を「色鍋島」と呼ぶ。鍋島焼はほかに染付や青磁などもあり、将軍や大名といった貴顕への献上品であったこと、造形は高台を高くして規格（尺・七寸・五寸・三寸）を定めた皿が主流の食器であったこと、そして同時代性に着目した和風模様を案出して中華スタイルの表現性から脱したことなどが特長として挙げられる。なかでも色鍋島はもともと華やかな存在だ。

鍋島焼の御用赤絵師を務めた今泉今右衛門家は、藩庁管理下に11軒（のちに16軒となる）に限って営業許可を得た有田の赤絵屋の一軒でもあった。廃藩置県で藩審制度も解消された1871年、今泉藤太が十代今右衛門を襲名して、素地・釉薬・絵具といった素材の調達・調製から成形・下絵付・施釉・本焼・上絵付にいたる色鍋島の一貫生産に乗り出した。以来、今右衛門窯は鍋島焼の最盛期とされる元禄から享保年間（1688～1736年）頃の製造技術を現代に伝える窯元として知られている。

一方で、個人としても「色絵磁器」の人間国宝となった十三代今右衛門（幼名 席太・別名 善詔、1926～2001）が、襲名後に、亡父十二代今右衛門（幼名 平兵衛、1897～1975）を代表に今右衛門窯の技術者で構成されていた重要無形文化財「色鍋島」の保持団体「色鍋島技術保存会」が、あらためて同指定の保持団体に認定された「色鍋島今右衛門技術保存会」の会長として総合指導したように、十三代次男の雅登（幼名、1962年生まれ）もまた、2002年の十四代今右衛門襲名とともに同会会長とその要件を継承している。このように現代における色鍋島の制作は、今右衛門窯が精励して伝承に努めてきた鍋島焼の製法や作調・品格などと、明治以降の歴代当主の創意とが結ばれて深まった、伝統性と革新性の融合を確信した明快な造形思考にもとづいており、藩政期の鍋島焼のスタイルを重視しながらもその復古や複製をめざすものではない。

色鍋島・今右衛門の繊細緻密な筆づかいで描かれた日本情趣あふれるモチーフは、一見繁縷だ。しかし、それらをバランスよく配置してまとまりある一つの文様とする絶妙な構成力と、様式化された洗練のかたちに宿る美質をもって、色鍋島・今右衛門はわが国色絵磁器の最高峰を継承するやきものとして認められている。

武蔵野美術大学工芸・工業デザイン学科金工専攻に入学してすぐ若林奮に傾倒し、現代彫刻を志して表現における素材重視の造形思考を自分なりに温めていた十四代今右衛門が、走泥社創立メンバーの鈴木治に師事した後、家業を継ぐため先代の許に戻ったのは28歳のとき。鍋島焼の技術研究のために古作写しを重ねた自己修練の数年間は、伝承技法に習熟するにつれ、自己の表現志向との葛藤に悩んだ時期だったという。

個人作家としての活動は1995年の「九州陶芸八人の会展」から。伝統のスタイルを追究するうちに、色鍋島の「線」とか「間」といった理詰めだけでは測りがたい雰囲気のようなもので身体や心に染み込んだと得心したころだったそうだ。翌年には《染付墨はじき梅文鉢》で第43回日本伝統工芸展に初入選を果たし、さらに二年後（1998年）の第45回同展では《染付墨はじき梅花文鉢》が日本工芸会会長賞を受賞した。

「墨はじき」というのは、江戸初期から鍋島焼の青海波や伊万里焼の地文づくりに用いられてきた、染付に白抜き文様を描くという技法で、上絵付の文様表現を主とする色鍋島にとってはいわば脇役的な加飾技術である。当代今右衛門は、このろうけつ染めに似た控え目な伝統技法を工夫して新たな表現性を追求した。「層々墨はじき」と自ら命名した独自の墨はじき技法である。

これは、素焼した器面に撥水効果をもつ墨を防色材に用いて文様を描き、その上に呉須（コバルト顔料）をごく薄く吹き掛けるという工程を繰り返した後、施釉せずに空焼して墨を焼き飛ばすと、明るい白色から徐々に暗さを増していく呉須の濃淡が文様として残るという



図1

もので、器面には視覚効果としての奥行き感もたらされる。まさに、鍋島焼の伝統技法の体得が個的表現として成立した瞬間である。同時期に器面の表情に一層の深みを見せる、白化粧を墨はじきた「雪花墨はじき」の技法も創始している。このような伝統的な墨はじき技法を自己表現の前面へと押し立てた制作を進めていたころ、装飾文様として描いていた梅の花芯が、やがて雪の結晶のイメージへと定着した。

個人作家として、工芸的造形への自分なりの方向性が定まったのは、襲名後も二年を経たころだそう。複雑でありながら、一貫する具体的な一つの世界の創造へと向かう個人作家としての表現力と、伝統窯の当主として家業を統括する技量とが、ともに素材と技術に裏打ちされる実践の積み重ねのうちに紡ぎ出され、しかも同じ規則に従うところから発することについて、独自の見極めがなされたのだろう。2004年の第51回日本伝統工芸展に出品した《色絵薄墨墨はじき雪文鉢》が東京都知事賞を受賞し、それからちょうど10年後の2014年に、重要無形文化財「色絵磁器」の保持者（人間国宝）



図2



図3

に認定された。

自己のかたちを現代の色鍋島として追求する十四代今右衛門は、いま、より上質な華やかさを求めて新たな上絵付け技法として「プラチナ彩」の表現性に挑んでいる。はじめは「銀彩」の発色むらを回避するための代替であったという。白金色に輝く部分が観る角度に応じて周囲を縦横無尽に映し込んでしまう鏡面的性質の強い上絵付けを、どのような造形要素として捉えて自己のかたちに表現していくのか、まだその方向性は定まっていないように思える。大胆さと斬新さで知られる鍋島焼伝統の構成力は、この鏡面をどう捌いていくのだろうか。

華やかさのなかに翳りと透明感のある静謐さを取り込んで、鍋島焼の伝統を革新し続ける十四代今右衛門の色鍋島は、今後の展開への期待から、ますます目が離せない。

（当館副館長）

- 図1 十四代今泉今右衛門 《色絵雪花墨色墨はじき梅文鉢》 2007年（部分）
 図2 十四代今泉今右衛門 《色絵薄墨墨はじき時計草文鉢》 2007年
 図3 十四代今泉今右衛門 《色絵薄墨墨はじき栢桐文蓋付瓶》 2011年

色絵磁器
の
最高峰

今右衛門 の 色鍋島

いまえもん の いろなべしま

2017 4.29 (土祝) - 6.25 (日)

休館日 ● 5月15日(月)、5月29日(月)、6月12日(月)

開館時間 ● 9:00～17:00 (入場は16:30まで)

観覧料 ● 一般：1,000(800)円、70歳以上の方・学生：800(600)円

※()内は前売りおよび20名以上の団体料金。※18歳以下の方および高等学校、中等教育学校、特別支援学校の生徒は無料。※身体障害者手帳、戦傷病者手帳、精神障害者保健福祉手帳の提示者とその介護者(1名)は無料。※前売券は、ローソンチケット(Lコード62905)、セブンチケットおよび県内各プレイガイドでお求めいただけます。

主催 / 今右衛門の色鍋島展実行委員会(山口県立萩美術館・浦上記念館、朝日新聞社、yab山口朝日放送)、公益財団法人 今右衛門古陶磁美術館

後援 / 山口県教育委員会、萩市

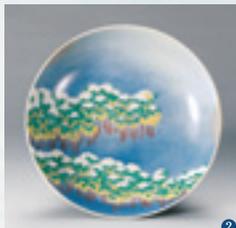
特別協力 / エフエム山口



わが国の色絵磁器のわざと美の極致を追求した色鍋島の伝統を、今日まで一貫して担ってきたのが、藩政期に御用赤絵屋をつとめていた今泉今右衛門家です。その工芸技術は重要無形文化財「色鍋島」の保持団体としての色鍋島今右衛門技術保存会に受け継がれ、また、その芸術性は同時代的美感を加える独自の表現で色絵磁器の造形美を追求した、十三代や当代の今右衛門(ともに重要無形文化財「色絵磁器」の保持者(人間国宝))の作品にみごと開花しています。本展では、平成26年(2014)に人間国宝の認定を受けた当代今右衛門の最新作から、明治以降に色鍋島の伝統を引き継いだ十代から十三代の今右衛門の近代作と、色絵をはじめ染付や青磁を含む鍋島藩窯の精品まで、そして色鍋島を理解する関連資料なども展示して、現代にいたる色絵磁器の崇高と美について、色鍋島370年の歴史を遡って紹介します。



① 色絵鳳凰文化粧品揃 十一代今泉今右衛門 昭和10年代(1935～1944)



②

② 色絵蕎麦花畑文皿 17世紀後期～18世紀初期 田中丸コレクション蔵

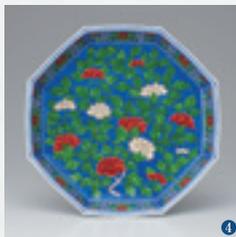


③

③ 色絵組紐文皿 17世紀後期～18世紀初期 大阪市立東洋陶磁美術館蔵

④ 色絵牡丹文八角皿 十二代今泉今右衛門 昭和32年(1957) 今右衛門古陶磁美術館蔵

⑤ 色絵薄墨珠樹文蓋付瓶 十三代今泉今右衛門 昭和62年(1987) (部分)



④

イベントのご案内

- ① 記念講演会Ⅰ「色鍋島今右衛門の魅力」 ※聴講無料・申込不要
 講師 荒川正明氏(学習院大学教授、本展監修者)
 日時 4月29日(土・祝) 13:30～15:00(開場13:00)
 会場 本館講座室(84席)
- ② 記念講演会Ⅱ「わたしと色鍋島の伝統」 ※聴講無料・申込不要
 講師 十四代今泉今右衛門氏(陶芸家、重要無形文化財「色絵磁器」の保持者(人間国宝))
 日時 5月14日(日) 13:30～15:00(開場13:00)
 会場 本館講座室(84席)
- ③ ワークショップ「いまえもん」
 一仲だち紙で文様を写してみよう(絵付け体験) ※参加費(一人1,000円)
 講師 十四代今泉今右衛門氏(陶芸家、重要無形文化財「色絵磁器」の保持者(人間国宝))
 日時 5月13日(土) ①13:00～14:30 ②15:00～16:30
 会場 陶芸館多目的室
 募集 各回16名(先着順。小学生以下は保護者が同伴してください)。
 A 参加希望者全員の氏名・年齢、B 代表者の住所と日中に連絡が取れる電話番号、
 C 参加日、参加回(午前または午後)を、電話(0838-24-2400)にてお申込みください。
- ④ ワークショップ「ちよるる」一絵付け体験 ※参加無料
 日時 5月6日(土)・20日(土)の午前(10:00～11:30)・午後(13:00～14:30)
 会場 陶芸館多目的室
 募集 各回16名(先着順。小学生以下は保護者が同伴してください)。
 A 参加希望者全員の氏名・年齢、B 代表者の住所と日中に連絡が取れる電話番号、
 C 参加日、参加回(午前または午後)を、電話(0838-24-2400)にてお申込みください。
- ⑤ ギャラリー・ツアー(担当学芸員による展示品解説) ※要観覧券・申込不要
 日時 5月7日(日)・5月21日(日)・6月4日(日)・6月18日(日)の11:00～12:00
 会場 本館2階展示室

愛の ヴィクトリアン ジュエリー

華麗なる英国のライフスタイル

平成29年(2017)

7月8日[土]~9月3日[日]

休館日 ● 7月24日(月)、8月7日(月)、8月21日(月)

開館時間 ● 9:00~17:00(入場は16:30まで)

観覧料金 ● 一般 1,000(800)円 / 70歳以上・学生 800(600)円

※()内は前売りおよび20名以上の団体料金。18歳以下と高等学校・中等教育学校・特別支援学校の生徒は無料。※身体障害者手帳、戦傷病者手帳、精神障害者手帳をご提示の方とその介護者(1名)は無料。※前売券は、ローンチケット、セブンチケットおよび県内プレイガイドでお求めになれます。

主催:愛のヴィクトリアン・ジュエリー実行委員会
(山口県立萩美術館・浦上記念館、毎日新聞社、tysテレビ山口)

後援:ブリティッシュ・カウンシル、山口県教育委員会、萩市 ほか

特別協力:稲葉アンティークジュエリー美術館、エフエム山口

企画協力:アートプランニングレイ

ピンクパール&カラーゴールドスワイト
1830年頃 イギリス

19世紀の英国ヴィクトリア時代のジュエリーと華やかな生活は、今日も多くの人を引き付ける魅力に溢れています。本展では、英国王室にまつわる宝飾品や著名なコレクションをはじめとするヴィクトリア時代を中心とした技巧を凝らしたジュエリーの数々を紹介いたします。併せて、当時のウェディングの装いや、英国の生活文化の一つとして広く浸透していったアフタヌーンティーの豪華な銀器によるテーブルセッティング、さらに繊細な模様を手仕事で仕上げたアンティーク・レースなど、華麗なる英国文化の粋を展観します。

会期中イベント

- 記念講演会「アンティークジュエリーの魅力」※聴講無料・申込不要
講 師:稲葉昭江氏(稲葉アンティークジュエリー美術館館長、本展企画監修)
日 時:7月22日(土) 13:30~14:30 (開場 13:00)
会 場:本館講座室(84席)
- ハンドリング・セミナー
ヴィクトリア朝のジュエリーを実際に手に取って鑑賞いただけます。
講 師:稲葉昭江氏(稲葉アンティークジュエリー美術館館長、本展企画監修)
日 時:7月22日(土) 15:00~16:00
参加費:3,000円(定員16名、要申込み)
- アフタヌーンティー・セミナー
アンティークの銀器に触れ、イギリス伝統の紅茶を楽しみながら、優雅なひと時をすごしませんか。
講 師:稲葉昭江氏(稲葉アンティークジュエリー美術館館長、本展企画監修)、
日本紅茶協会スタッフ
日 時:8月19日(土) 14:00~16:00
参加費:4,000円(定員16名、要申込み)
- ギャラリー・ツアー(担当学芸員による作品解説)※要観覧券・申込不要
7月16日(日)、7月23日(日)、7月30日(日)、8月6日(日)、
8月20日(日)、8月27日(日)、9月3日(日) 11:00~12:00
会 場:本館2階展示室

※ハンドリング・セミナー、アフタヌーンティー・セミナーの申込み期間については、後日HP等でお知らせいたします。
※各イベントの日時等は変更となる場合があります。変更の際は、HP等でお知らせいたします。



シードパールティアラ
19世紀初期 イギリス



若き日のヴィクトリア女王
1842年 F.X.ヴィンター・ハルター工房 イギリス

ティーセット
(トレー、ティーポット、コーヒーポット、クリーマー、シュガーポット)
1860~61年 ロンドン



ターコイズ&ゴールドブローチ
1830年頃 イギリス



※作品はすべて稲葉アンティークジュエリー美術館蔵

ほくさい ひろしげ

北斎と広重 浮世絵に描かれた富士 I・II

浮世絵

会期：I 平成29年(2017)4月29日[土・祝]～5月28日[日]

II 平成29年(2017)5月30日[火]～7月2日[日]

世界でも有名な葛飾北斎かつしかほくさい（1760～1849）と歌川広重うたがわひろしげ（1797～1858）は、しばしば個性を比較して語られます。北斎の代表作「富嶽三十六景」は、富士山を主題にしたシリーズで、ベルリンブルーのあざやかな青色と奇抜な構図が目を惹きます。北斎の没後、広重は最晩年に「不二三十六景」と「富士三十六景」の2種類のシリーズを発表しました。広重作品は、計算された構図や色調から季節感や詩情を感じさせます。今回は2回にわけて、北斎と広重の描いた富士山をくらべてご覧ください。

左：「富嶽三十六景 山下白雨」
葛飾北斎 横大判錦絵
天保2～5年（1831～1834）

右：「富士三十六景 武蔵小金井」
歌川広重 大判錦絵 安政5年（1858）



うたがわくにさだ

歌川国貞の役者絵

浮世絵

会期：平成29年(2017)7月8日[土]～8月6日[日]

歌川国貞は、江戸時代後期に活躍した絵師です。初代歌川豊国の門弟で、文化4年（1807）にデビューして間もなく頭角を現し、役者絵、美人画を中心に活躍しました。当時の売れっ子絵師であり、描いた作品の数は万を越すといわれています。天保15年（1844）には三代豊国（自称二代）を襲名し、初代豊国の実質的な後継者として歌川派を先導しました。

今回の展示では、幕末の浮世絵界で重要な役割を果たした国貞の役者絵を紹介します。



歌川国貞「大切鯉遣ひ大当り大当り」大判錦絵3枚続 天保3年（1832）

オブジェ — 陶造形の潜勢力Ⅲ

陶芸

会期：平成29年(2017) 3月18日[土]～平成30年(2018) 3月11日[日]

自己表現として制作された現代のやきもののうち、作り手が自身に潜在する素材のイメージを作品化した陶造形を紹介します。

《黒の遺構》は、三輪和彦（1951年萩市生まれ）が信楽にある滋賀県立陶芸の森研修館に足かけ3年通い詰めて完成させた、24基からなる巨大なオブジェ陶作品群です。展示では、総重量が20トンもの粘土を立ち上げて焼成した角柱状のオブジェ陶を雄大なインスタレーションとしてご覧いただきます。

陶土の素性が露わとなった激しい断裂や湾曲、釉薬や金彩を施された滑らかさと粗さを同時にみせる肌合い、また重量物の発する堂々たる姿など、これらオブジェ陶一つ一つのテクスチャーだけを眺めても気圧されるほどの迫力は伝わってきますが、インスタレーションで相互に関係性を構築したこれらが占有する空間の張り詰めた緊張感は、観る者の存在すら軽く想わせるほどの圧倒的支配力を誇示しています。

造形素材である土に自己を参照させ、その物質的特性に内面に潜むイメージを抽象化または具体化して力強く表現するオブジェ陶の潜勢力をご堪能ください。



三輪和彦 黒の遺構 [部分] 平成18年(2006) 撮影:斎城卓

茶室

田中信行の茶室 流れる水 ふれる水

2017年4月8日(土)～2018年3月25日(日)

田中信行《流れる水 ふれる水》(部分) 2015年

愛され続けるコレクション —松村實コレクション—

山口県玖珂郡出身の実業家、松村實氏は旧制山口高等学校、京都帝国大学法学部を卒業後、日本興業銀行に入行し、昭和30（1955）年より協和発酵工業株式会社の専務取締役などを歴任されました。美術をこよなく愛し、卓越した選択眼で優れた作品を収集し、平成12（2000）年に94歳で他界されました。

その後、ご遺志と、ご遺族のご協力により、生涯をかけて収集された中国陶磁、朝鮮陶磁、日本陶磁、日本絵画のコレクション49点が山口県に寄贈されました。

このたび、平成29（2017）年5月30日から8月6日まで、松村氏が愛した珠玉の美術品のうち陶磁器46点を一堂に展示します。

今回は、出品作品のなかから大変美しい4点をご紹介します。

青磁管耳瓶

蕪のようなふっくらとした体、細く伸びる頸、その両脇に付く耳は管状になっており、作品名にもなっています。このような形は、投壺と呼ばれる矢を投げ入れて競う遊びで用いられる金属製の壺に由来します。また、器面に厚くかけられた美しい釉薬は、上質な龍泉窯青磁を意味する砧青磁の系譜にあることを表わしています。龍泉窯は中国浙江省南部に位置する龍泉市一帯に窯跡が広がり、その質の高さから人気を博し、生産が最盛期を迎えた元時代には膨大な数が作られて世界各地に運ばれるほどでした。

青磁管耳瓶 元時代～明時代初期・14世紀 高さ27.0cm



青花牡丹唐草文鉢

器の白さをキャンパスにして、青い文様が外面と内面ともに一面に描かれています。このようなやきものを中国では「青花」と言い、日本では「染付」の名で親しまれています。また、素地に絵付けし、上から釉薬をかけて器面を滑らかに仕上げる釉下彩のひとつです。元時代（14世紀前半）に江西省東北部に位置する景德鎮市一帯に分布する景德鎮窯で本格的な生産が始まりました。明時代には景德鎮珠山に宮廷用の器を焼造するための御器廠（官窯）がおかれ、中国を代表する窯業地として地位を確立しました。この大ぶりの鉢は、宣徳期（1426～1435年）の官窯で作られたもので、均整のとれた形や精巧な文様は技術の高さを伝えています。見込に描かれた石榴の実のひとつは大きく果皮が開き、中に詰まっている果粒が今にもあふれ出しそうな様子は、子孫繁栄を象徴する吉祥文の由縁らしく豊かに描かれています。また、周囲は百花王の別名をもつ牡丹と唐草がほどよく余白を満たすように丁寧に描かれ、宮廷用らしい緊張感のある器となっています。

青花牡丹唐草文鉢 明時代・宣徳在銘（1426～1435）口径20.8cm



はくじつぽ 白磁壺

大きくゆったりとした壺は、韓国で「満月壺（タルハンアリ）」と呼ばれ、朝鮮時代中期を代表する器です。上半と下半を個別に作って成形する胴継ぎと言う手法をとっているため、継ぎ目が歪になり、独特の曲線を作り出しています。また、全体にかかる乳白色の釉薬にはあたたかみのある薄い紅色の斑点がいくつか現れ、景色となっています。満月を思わせるような豊満な壺は、その素朴さとあいまって他にはない魅力をはなっています。



白磁壺 朝鮮時代 17世紀後半～18世紀前半 高さ36.3cm

いろえあわうずらもんはっかくぼち 色絵粟鶉文八角鉢

八角形の鉢は、延宝年間（1673-81年）に柿右衛門が完成させた最も上質な色絵用の素地「濁手」（磁器質胎土）で作られています。乳白色を呈することから乳白手とも呼ばれ、色絵が美しく映えます。見込には粟の穂と秋草に二羽の鶉を描き、口鏤を施した口縁部には半截の花文を廻らせています。「粟に鶉」文様は、ヨーロッパなどへの輸出用として作られました。たっぷりとられた余白が引き立てる意匠は、朱に近い赤と黒で輪郭が描かれた文様を赤・緑・青・黄・金で塗り埋めており、明るく優美な印象を与えています。



色絵粟鶉文八角鉢 有田（柿右衛門様式） 江戸時代 17世紀後半 幅23.8cm

いずれも時代や地域を代表する陶磁器で、その見所をご紹介しました。

松村氏は、自宅の和室の飾り棚や書斎机の前のガラスケースに、収集した作品を飾り、時折入れ替えて愉しんでいたそうです。中国・朝鮮・日本とそれぞれの地域で作られた陶磁器には風土や時代がはぐくんだ魅力があります。そういった魅力を丁寧に感受し、選ばれたコレクションは、今では多くの方々の愉しみとなっています。

（市来真澄／学芸課主任）

※本文は、〈山口県立萩美術館・浦上記念館（編）2004年『松村實コレクション 中国陶磁 朝鮮陶磁 日本陶磁 日本絵画』を参考にしています。

まつむらみのる 松村實コレクション —中国・朝鮮・日本の陶磁器—

東洋陶磁

会期：平成29年(2017) 5月30日[火]～8月6日[日]

浦上敏朗氏寄贈 作品紹介

寄贈資料 一覧

番号	作者	作品名	制作年	寸法(cm) / 形態・判形
1	楊洲周延	時代かがみ 明治 憲法発布	明治30年(1897)	大判錦絵
2	立原位貫	歌撰恋之部 物思恋 / 喜多川歌麿(復刻、多色摺木版画)	1978年	39.7×27.4
3	立原位貫	源頼光公館土蜘蛛作妖怪図 / 歌川国芳(復刻、多色摺木版画)	1981年	(左)38.2×27.0 (中)38.0×26.3 (右)38.0×26.4
4	立原位貫	歌撰恋之部 深く忍恋 / 喜多川歌麿(復刻、多色摺木版画)	1981年	39.2×26.4
5	立原位貫	装丁本『かぶき夢幻 / 部可正勝』; 装剣奇賞(復刻、多色摺木版画)	1983年	21.9×16.7×3.2
6	立原位貫	青楼美人六家選 松葉屋粧ひ(復刻、多色摺木版画)	1984年	39.2×26.3
7	アダチ版画研究所	当世遊里美人合 / 鳥居清長(復刻、多色摺木版画)	不詳	39.4×26.7
8	小田まゆみ	花よりだんご(エッチング)	不詳	15.6×9.9
9	J.フリードランド	無題(リトグラフ)	不詳	42.2×52.0
10	シャガール	無題(エッチング)	不詳	20.9×27.6
11	三岸節子	花(油彩画)	不詳	27.4×33.5
12	三岸節子	無題(水彩画)	不詳	24.5×32.4
13	村上肥出夫	すずらん(油彩画)	不詳	26.6×20.7
14	村上肥出夫	1971. 清水(水彩画)	1971年	43.5×30.2
15	不詳	染付菊弁文猪口	18世紀後半(江戸)	口径8.2
16	不詳	染付鉄線文猪口	18世紀後半(江戸)	口径6.7
17	不詳	染付樹下人物文猪口	18世紀末～19世紀初(江戸)	口径7.2
18	不詳	染付蜻蛉草文猪口	18世紀末～19世紀初(江戸)	口径8.2
19	不詳	色絵蝶花弁文杯	18世紀末～19世紀初(江戸)	口径4.8
20	不詳	色絵蝶花弁文杯	18世紀末～19世紀初(江戸)	口径5.1
21	不詳	染付竹筵文猪口	18世紀末～19世紀初(江戸)	口径8.0
22	不詳	染付唐子遊び文杯	18世紀末～19世紀初(江戸)	口径5.3
23	不詳	染付草文猪口	18世紀末～19世紀初(江戸)	口径6.8
24	不詳	染付花文角皿	19世紀前半(江戸)	口径26.4×31.0
25	不詳	染付岩上鷹文皿	19世紀前半(江戸)	口径30.9
26	不詳	染付山水人物文角皿	19世紀前半(江戸)	口径31.5×38.0
27	不詳	染付四割花文に交差文市松湯呑	19世紀前半(江戸)	口径7.4
28	不詳	染付騎馬人物文棧花皿	19世紀前半(江戸)	口径25.3
29	不詳	染付松竹梅文長方皿	19世紀前半(江戸)	口径20.8
30	不詳	染付竹虎文皿	19世紀前半(江戸)	口径29.3
31	不詳	色絵錦文猪口	19世紀後半(明治)	口径6.9
32	不詳	色絵人物文杯	19世紀後半(明治)	口径5.0
33	不詳	色絵人物文杯	19世紀後半(明治)	口径5.0
34	不詳	色絵蓮弁唐草文猪口	19世紀後半(明治)	口径6.3
35	不詳	色絵蓮弁唐草文猪口	19世紀後半(明治)	口径6.3
36	十代三輪休雪	菖香炉	1960年頃	蓋付高15.1



立原位貫「歌撰恋之部 物思恋 / 喜多川歌麿」
復刻、多色摺木版画 1978年 39.7×27.4cm

浦上氏は、立原位貫氏が浮世絵の復刻を制作するために、自身のコレクションから原画を貸与して支援しました。

山口県立美術館 / 山口県立萩美術館・浦上記念館

平成29年度県立美術館 メンバーズクラブ会員募集

県立美術館メンバーズクラブでは、山口市 / 萩市にある2つの県立美術館をよりお楽しみいただける各種サービスをご用意しています。

会員特典

展覧会が3回まで無料!!

2館の企画展(特別展示)の中から、お好きな展覧会を3回まで無料、4回目以降は半額でご覧いただけます。また、普通展示(コレクション展)も3回まで無料、4回目以降は100円でご覧いただけます。

※対象の企画展は、「平成29年度 企画展(特別展示)スケジュール」(右下)をご覧ください。
※普通展示(コレクション展)の特典は、企画展(特別展示)と同視観覧の場合になります。

●展覧会オープニングセレモニーへご招待!(抽選で10名様限定)
2館の企画展(特別展示)オープニングセレモニーに抽選で10名様をご招待します。

●開催中の展覧会図録を割引販売!
図録価格は各展覧会ごとに異なります。

●2館の展覧会、イベント情報などをご自宅にお届けします!

●カフェでのお得な特典をご用意しています!
詳しくは各館にてお尋ねください。

●会員限定のイベントを開催!

●年会費 一般会員:2,000円
学生会員(19歳以上の学生の方):1,700円
シニア会員(70歳以上の方):1,400円

※学生・教職員の方は、キャンパスメンバーズもご利用いただけます。(ただし加盟校の方が対象です。)加盟校、内容は2館のホームページでご確認ください。

●募集期間 平成29年4月1日(土)～平成29年7月31日(月)まで
※山口県立美術館での受付は、7月30日までです。(7月31日は休館日のため)

●有効期間 ご入会日～平成30年3月31日(土)まで
申込書および会員規約は、2館のホームページからダウンロードいただけます。

入会したその日から使えます!

平成29年度 企画展(特別展示)スケジュール ※観覧の会費・内容は変更になる場合があります。
お好きな展覧会を3回まで無料でご覧いただけます!(4回目以降は半額となります。)

山口県立美術館

- 高畑・宮崎アニメの秘密がわかる。スタジオジブリ・レイアウト展 4/20(木)～6/18(日)
- ランス美術館展 華麗なるフランス絵画 7/6(木)～8/27(日)
- 創建1250年 奈良 西大寺展 一尊寺と一門の名宝 10/20(金)～12/10(日)
- デンマークデザイン展 平成30年2/24(土)～4/8(日)

山口県立萩美術館・浦上記念館

- 一色絵磁器の最高峰 今右衛門の色鍋島 4/29(土・祝)～6/25(日)
- 愛のヴィクトリアン・ジュエリー 華麗なる英国のライフスタイル 7/8(土)～9/3(日)
- プリティー♡プリント 江戸の花鳥版画展 9/16(土)～10/22(日)

お問い合わせ

開館時間 9:00～17:00

山口県立美術館 URL <http://www.yma-web.jp/>
〒753-0089 山口市亀山町3-1 TEL:083-925-7788 FAX:083-925-7790

山口県立萩美術館・浦上記念館 URL <http://www.hum.pref.yamaguchi.lg.jp/>
〒758-0074 萩市平安古町586-1 TEL:0838-24-2400 FAX:0838-24-2401

Special Selection

特選鑑賞室

特選鑑賞室は収蔵する浮世絵版画のなかから名品1点を展示し、じっくりと鑑賞していただくコーナーです。

平成29年度は「名所江戸百景」から以下の12点をご覧ください。

2017年 4月

うたがわひろしげ
歌川広重

めいしょえ どりひつげい
名所江戸百景
堀切の花菖蒲

大判錦絵 安政4年(1857)



昔から湿潤な土地であった堀切は、花菖蒲の栽培に適しており、天保(1830~1844)末期に小高伊左衛門が菖蒲園を開園して以来、多くの人々が訪れる花菖蒲の名所となりました。花菖蒲越しに向こう岸を眺めるという、一工夫された構図の作品です。

5月

歌川広重

名所江戸百景
駒形堂吾妻橋

大判錦絵 安政4年(1857)



副題に記された駒形堂と吾妻橋は左下に描かれています。赤い旗は、駒形堂西で紅や白粉を売った小間物屋の百助が掲げたもの。空にはホトギスが飛び、吉原の遊女二代目高尾太夫の詠んだ歌「君は今駒形あたりほととぎす」を連想させます。

6月

歌川広重

名所江戸百景
亀戸天神境内

大判錦絵 安政3年(1856)



亀戸天神境内にある心字池のあたりは、藤の名所として江戸の人々にも親しまれていました。本来ならば太鼓橋の下にも空が続くはずですが、初摺は池と同じ藍色で摺られています。後にこの配色は改められました。

7月

にだい
二代歌川広重

名所江戸百景
赤坂桐畑雨中夕けい

大判錦絵 安政6年(1859)



雨の日のしっとりとした雰囲気や漂う作品です。赤坂御門前の坂の辺りは森林や人の影が重なっています。この作品は二代広重を襲名した歌川重宣が描いたもので「二世廣重畫」と署名されています。

8月

歌川広重

名所江戸百景
両国花火

大判錦絵 安政3年(1856)



江戸の年中行事のなかでもとりわけ人気が高かった両国花火。夜空に打ち上げられた花火のきらめきが巧みに表現されています。隅田川には客を乗せた船が集まり、両国橋の上も見物人で賑わっています。

9月

歌川広重

名所江戸百景
猿わか町よるの景

大判錦絵 安政3年(1856)



歌舞伎や人形浄瑠璃の芝居小屋、芝居茶屋が立ち並ぶ猿若町の夜の風景。人々は芝居が終わって帰路につく様子です。その姿は月に照らされ、地面に影を落としています。

10月

歌川広重

名所江戸百景
よし原日本堤

大判錦絵 安政4年(1857)



荒川の氾濫を防ぐために築かれた日本堤は、吉原への通い道として栄えました。夕暮れの頃、上空では雁が月を横切って帰へ帰り、地上では人々が葦簾張りの茶屋が連なる日本堤を通過して吉原へと向かいます。

11月

歌川広重

名所江戸百景
浅草田雨西の町詣

大判錦絵 安政4年(1857)



11月の西の日には鷲神社で西の祭(西の市)が行われます。吉原の遊女屋の窓際からネコが見つめる先には、縁起物の熊手を担いで歩く人々が描かれています。客からのお土産でしょうか。室内にもこの熊手をモチーフにした簪が置かれています。

12月

歌川広重

名所江戸百景
深川洲崎十万坪

大判錦絵 安政4年(1857)



深川洲崎十万坪は江戸時代に埋め立てられて出来た土地です。冬の雪空に鷲が舞い、鷲と同じ高い視点からこの土地の広く荒涼とした様子が描かれています。遠くに見えるのは筑波山です。

2018年 1月

歌川広重

名所江戸百景
日本橋雪晴

大判錦絵 安政3年(1856)



雪がやんできれいに晴れ上がった日本橋。手前には魚河岸があり、人々が魚を運んだり競りをしたりと賑やかです。遠景には江戸城、さらにその向こうには富士山が見えます。

2月

歌川広重

名所江戸百景
廓中東雲

大判錦絵 安政4年(1857)



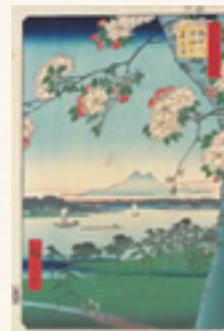
東の空が明るくなる頃、吉原で唯一の出入り口である大門が開き、客は朝帰りをしました。路上はまだ暗く、植込みの桜の花は薄墨ぼかして表現されています。

3月

歌川広重

名所江戸百景
隅田川水神の森真崎

大判錦絵 安政3年(1856)



隅田川上流から筑波山を眺めた景色。前景右手に小さく見えるのは水神社で、このあたりの森を水神の森と呼びました。満開の桜の花が作品に華やかさを与えています。

